



かけはし

平成29年 2月 1日

ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

家庭学習の習慣を

校長 川崎 直人

3学期が始まりました。学校には子どもたちの元気な声が響いています。学校に生気が戻ってきたようです。始業式には30人全員が元気に登校してきました。冬休み中は大きな事故もなく楽しく過ごすことができたことを聞き、大変うれしく思います。その中で、「3学期はまとめの時期です。その学年で身に付けておくべきことはしっかり身に付けるように努力しましょう」とお話ししました。



小学校時代は、とくに「基本的な生活習慣の確立」が重要となります。その中でも、人の話をよく聞くこと、自分のことは自分ですること、人に迷惑をかけないことなどは、集団生活をするうえで、特に重要です。

家庭学習においては、宿題があってもなくても自然と自分から進んで机に向かう習慣を身に付けることが大切です。宿題があるから仕方なしに学習するとか、人に言われたから机に向かって学習するなど、受け身の学習では決して長続きしません。また、テレビやゲームなど子どもの心を揺り動かすことがたくさん存在しますが、その誘惑に負けない強い気持ちをもつことも肝要です。

時には弱い心に打ち勝つ強い心、つまり我慢することも大切です。習慣化して毎日学習していくと、学習の仕方がわかるようになり、わからなければ自分でわかる方法が見つかるようになります。そして、進んで学習する楽しさにも気付くようになっていきます。

家庭学習は、学校で学習し、さらに興味をもって調べてみたいことが出てきたとき、一層学習を深める機会となります。人の力を借りずに自分で興味をもって学習を進めることは、自分の知的財産を増やすことにつながり、とても価値のある素晴らしいことです。この学習する態度こそ生きる力と言えます。このような家庭学習の習慣化は、中学校、高等学校へと進むとき、自分自身の大きなエネルギーになっていくものと思います。

毎日、30分でも自分から机に向かって宿題や自由勉強などをするを勧めます。習慣になるまではなかなかうまくできないかもしれませんが、やって見たいことなど興味のあることから始めるとよいかもしれません。

家庭において子どもたちが自ら進んで学習していくよう、保護者の皆様におかれましてはご協力くださいようよろしくお願いいたします。